令和4年度 長野商業高等学校 定時制 学校評価表

学校教育目標		重点目標(中長期目標)									
大事なのは今までのあなたじゃなく、これからのあなた。個々のペースに応じたカリキュラムを構築し、社会的に自立した人間を育成する。 このため、次の目標を定める。 1 学ぶ意欲と主体的に取り組む姿勢 2 充実した学びの場の構築 3 自分らしく生きる人間の育成		1 基礎学力の定着と、個々の興味・関心・適性に応じた教育活動の展開。 2 単位制教育の特徴である個々のペースで学べるカリキュラムの構築 3 暴力・いじめのない安全・安心な学校作りを推進する。									
		今年度の重点目標 ○自らの力を信じて夢に挑戦できる生徒の育成	にA よ: い非 常	むB ね: よお いお	り-C し計: 画通 通	不D 満: や や	分E : 不 十	成果と課題			
		①一人ひとりのニーズをもとに、生徒の自立と成長を支援する職員チームとしての個別支援の充実。		6	5			職員のパトルを合わせ、様々な生徒に全員で対応していけるよう努力したい。			
		②ICT機器などを利用した自ら学ぶ授業の展開をし、個別指導・単位認定に向けた補習授業の充実により、生徒が達成感を持つことができる学習指導の充実。		2	7	2		授業進度が例年より遅く、機器を扱う余裕がなかった。			
	③生徒の目標や一歩踏み出す力を支援し、個々の特性を配慮した探究活動・進路学習の充実。		3	8			様々な生徒の目標達成の支援ができるようさらに努力していきたい。				
分掌	評価項目	評価の観点	にA よ: い非 常	むB ね: よお いお	り-C し計: 画通 通	不D 満: や や	分E : 不 十	成果と課題			
学習指導	学習意欲の喚起	○生徒の実態に基づく授業改善と工夫(UD化等)ができたか。	1	6	4			生徒の興味関心を引き出すためのさらなる授業改善を職員全体でおこなっていききたい。			
		○ICT機器などを活用し、一人ひとりの学力や適性に応じた指導がなされたか。	1	2	7	1		講習会を通してスキルアップが図れた。欠席の多い生徒への指導は課題である。定時制全体での実践交流によるボトムアップが必要。			
	商業科目や各種検定で資格取得数や受験者数の増加	○各種検定や資格取得に向けた呼びかけや支援が行われた。			8	3			チラシ等で呼びかけているが、チャレンジしようという生徒は少数。増単位の見直しが必要。		
		○各種検定に少しでも多くの生徒が挑戦しようとしたか。			3	8			自主的に挑戦する生徒がいる中で、商業科目検定に合格する生徒がいた。職員間での情報共有を密にする必要がある。		
		○資格検定合格者が増加したか。			1	8	2		商業科目資格検定合格者が出て大変良かった。		
	シラバスに沿った計画的な授業展開	○シラバスに沿った計画的な授業展開がされたか。			4	5	2		例年より進度が遅れてしまった。		
キャリア教育計画の実践	○学校設定科目「ジョブリサーチ」を中心としたキャリア教育を実践できたか。	2	4	5				職員全員で担当する科目があることは良いと思う。個々の職員の特徴を出し、様々な視点から授業を実施できて良かった。			
進路指導	個々の特質に応じたきめ細やかな進路指導	○進学・就職試験のマニュアルを作成し、説明会を通して、平等に周知して進めることができたか。	1	5	5				再三連絡しても、説明会に参加の生徒がいたことは残念である。		
		○選考開始に間に合う生徒には早めの指導をし、様々な事情で遅れが生じた生徒にも係と担任が協力して、卒業まで粘り強く指導を続けることができたか。			6	5				生徒の意識を高めるためにも、早めの指導は必要である。	
		○職業安定所など外部機関と連携をとり、就職支援ができたか。	4	2	5					生徒の要望に極力応えるため就職支援室と密に連絡をとり、進路指導に努めることができた。	
特別支援	コミュニケーション能力の向上	○一人ひとりの個性を受け入れ、対人関係能力や協調性を高める関わりができたか。	2	7	2				入学後、早めの個別指導ができ、効果があった。吃音の子、数学が苦手な生徒には人一倍気を使って接してきた。		
		○「困難さ」を職員全体で共有し、担任や特別支援委員会が中心となって支援が行えたか。	2	6	3					定期的に委員会を開き、情報共有ができた。職員間の情報共有することの重要性を感じた。	
	生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援の実践	○障がい(疑い)のある生徒について個別の支援計画を作成し、具体的な支援や合理的な配慮ができたか。	2	3	6					委員会で個別に支援方法を検討し、担任をはじめ全職員である程度配慮することができた。	
		○関係機関と連携した教育活動を実践できたか。	4	3	4					課題を持った生徒を対象に丁寧な支援がおこなえている。	
生徒支援	学校生活における公共マナーの向上	○公共マナー遵守への呼びかけや指導がしっかりと行われたか。	1	2	5	3				マナーの指導は、場面ごとに実施してきたが、不十分な部分もある。	
		○上下履きの区別、入室時のあいさつの徹底ができたか。			6	4	1				きちんとあいさつできる生徒が増えているように思う。生徒の方から気持ちよくあいさつする場面が多見られた。
		○喫煙に対する意識向上や防止に効果がみられたか。	2	2	6	1					生徒支援係が中心となり、問題行動(喫煙)からの立ち直りの支援を担当と協力しておこなえた。
	交通ルール遵守と交通マナーの指導	○自転車・バイク等に乗る際に交通ルールを遵守しているか、また交通マナーが身についているか。			5	6					交通安全教室等を通じて、ルール遵守の意識を高めることができた。今後、自転車の運転者のヘルメット着用意識を上げることが課題となる。
	人権を尊重できる生徒の育成と安全・安心な学校づくり	○登校時の指導や校内外の巡視等により、安全・安心な学校づくりが推進できたか。			5	6					必要に応じて、係中心に巡視等をおこなった。
	「アセス」の実施	○「アセス」の結果をもとに面談等を充実させ、個々の問題を把握し、対処できたか。	1	5	5						アセスの考察方法や具体的な指導方法の理解を深めることで、生徒対処への助けとなっている。